

高知市

不規則な中にリズム

田中愛子 アクリル画展

植物など抽象化した9点

高知市出身の画家、田中愛子の個展「botany」が高知市薮野北町1丁目の沢田マンシヨンギャラリーroom38で開かれている。植物などを題材にイメージした抽象画9点が並んでいる。2月2日まで。

1989年生まれ。土佐塾中高から京都造形芸術大学に進み油絵を学ぶ。同大学院修了後はアクリル画を中心に活動。個展やグループ展で発表している。現在は東京都在住。

田中は、地面から生える草花などに視点を向け、面白いと思う形状からイメージを膨らませている。絵画は次第に抽象化し、多彩な色と形が不規則に組み合わさっていく。「幾何学的なものを取り出して描く感じ」と感覚を語った。

その中で不思議とリズムが取れ、調和しているのが特徴的だ。「春と高原」。赤をベースに、花がいくつかに咲いているように見える作品。さまざまな色のにじみや滴りが効果的で、生き生きした印象。

「雨、土」は、地層のような重なりが横へ横へと展開。形は安定しているが、赤系と青系の色彩を相対するよう塗分け、不安定な要素を画面の中に同居させている。

地元では初個展となる26歳。昨年京都市で行った個展は、町家を会場にして好評を得た。「目指すは心地よくなる絵画」と語る。色や形をバランスを取って構成する。その時作り手が気持ち良く感じている感覚をそのまま伝えたいという。今回も手応えをつかみたい個展だ。

(西森征司)



「大学院のころから色彩を多く使うようになった」と語る田中愛子(高知市の沢田マンシヨンギャラリーroom38)